

平成26年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	明治初期の北海道開拓使大判官松本十郎の生涯及び業績の研究
------	------------------------------

研究代表者

氏名 佐藤 正光	所属 人文社会科学系日本語・日本文学研究講座	職名 教授
-------------	---------------------------	----------

研究分担者

氏名	所属	職名

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

前回の重点研究費予算により、松本十郎の自筆資料『松本家系譜』における、家系の記述、及び幼少期から戊辰戦争に至るまでの漢文体の自叙史を書き下し文に直し、さらに現代語訳した。これにより、(1)十代で父に従って庄内藩の所領である北海道浜益毛(北海道石狩市)に赴任した際の旅程、及び北海道滞在時の状況、(2)庄内(山形県鶴岡市)へ帰還して後、京都での攘夷運動による不穏な世情から庄内藩が江戸警護の命を受け、その警備隊の一員として江戸(東京都)に滞在した経緯と江戸での状況、(3)伏見戦争の幕府軍敗北により江戸守護職を辞退し帰藩を命じた藩主に従って郷里に帰り、戊辰戦争に従軍した経緯とその状況等を明らかにした。

今回は、明治初年の北海道開拓使、及び開拓長官となった松本十郎について実施調査のための調査費として重点研究費を頂いた。金額が予定の額より少なかったことと、附属学校の管理職についてことで調査のための日程がなかなか取れなかったことなどから、平成26年度は調査実施を断念せざるを得なかった。

代わりに重点研究費は主として書籍の購入に充て、松本十郎の経歴が詳細に記されている自著『松本家系譜』の幕末から明治初年までの文章を翻訳し、そこに記されている地名、人名などについて調査し、松本十郎の足跡を詳細に確認した。これにより北海道での拠点、当時の実地踏査に訪れた場所と日時等を把握できたので、今後はその調査に基づいて実地見学の予定を立てたいと考えている。

『松本家系譜』の翻訳については平成27年度中に翻訳を完成させ、東北出版社より出版する予定である。

研究成果発表方法

[発表論文名(口頭発表を含む)、氏名、学会誌等名(投稿中・投稿予定・執筆中)を記入する。]

※本経費を用いて、報告書(冊子等)を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

翻訳した『松本家系譜』は1、2年以内に刊行する予定である。今回の調査の成果は、本学研究紀要に掲載したいと考えている。